

# OECD国際成人力調査(PIAAC)の実施について

国立教育政策研究所

国立教育政策研究所では、本年度、OECD（経済協力開発機構）が主催する国際成人力調査（PIAAC:ピアック）の現地調査を行います。

## 1. 調査の趣旨

この調査は、社会や日常生活で用いるスキルを測定し、教育及び学習の成果が社会や日常生活でどのように活かされているかを、収集されたデータを基に国際比較分析する国際共同調査です。その結果を各国での今後の教育政策等の立案に役立てることを目的としています。

約10年前の2011年に第1回が実施され、今回は第2回の調査となります。OECD加盟国を中心とした日本を含む30か国以上が参加する予定です。国立教育政策研究所は国内実施機関であり、事務局を生涯学習政策研究部が担当し、個々の調査業務は委託を受けた（株）日経リサーチが行います。

## 2. 調査の概要

実施の概要は以下のとおりです。

- ①実施時期：令和4年（2022年）9月～令和5年（2023年）3月予定
- ②対象：16歳から65歳の約1万人の成人
- ③内容：回答者自身の学歴、職歴、収入、学習活動への参加状況などを尋ねる「背景調査（Background Questionnaire）」と、日常生活での様々な場面で、文章や図などの形で提供された情報を理解し、課題の解決に活用する力を「読解力」、「数的思考力」、「状況の変化に応じた問題解決能力」の3分野の側面から調べる「直接評価（Direct Assessment）」で構成。
- ④方法：タブレットを用いた対面方式で実施。背景調査は調査員によるインタビュー形式、直接評価は回答者本人によるタブレット入力で行う。
- ⑤結果の公表：調査終了後に個人が特定されないよう処理されたデータをOECDが集計・分析し、統計的に処理された形で国際比較した結果の公表を、令和6年（2024年）12月以降に予定。



### 直接評価の3つの分野

- ①読解力 (Literacy)
 

文章や図表を理解し、評価し、活用する力  
例) ホテルにある電話のかけ方の説明を読んで、指定された相手に電話をかけるにはどのように操作したらよいかを答える。
- ②数的思考力 (Numeracy)
 

数的な情報や内容を用いて論理的に考える力  
例) 商品の成分表示を見て許容摂取量を答える。
- ③状況の変化に応じた問題解決能力 (Adaptive Problem Solving)
 

条件や状況の変化によって生じる新たな問題を把握し、適切な解決に導く力  
例) 複数の人のスケジュールを、当日の予定や会場の都合の変化に応じて適切に調整する。

## 3. 調査対象者への依頼方法

住民基本台帳から無作為に抽出された調査対象者へは、次のような方法で調査を依頼します。

① 対象者に依頼状を送付します

対象者として選ばれた方に、調査への協力をお願いする文書をあらかじめ送付します。

② 調査員が訪問し、日程調整をします

調査員がご自宅を訪問し、調査する日時を調整します。調査はご自宅か、希望に応じて公民館などお近くの施設を利用することを予定しています。

③ 指定した日時に調査を行います

約束した日時に調査員が調査対象者と1対1で調査を行います。

## 4. 調査へのご協力をお願い

正確な調査結果を引き出すには、より多くの方から回答を収集する必要があります。もし、御自身のもとに調査依頼が届きましたら、是非とも回答にご協力いただきますようお願いいたします。

また、回答していただく場所として、最寄りの公民館等を使わせていただくこともあると思います。教育委員会及び民館等関係者におかれましては、調査員から施設内の利用について相談がありましたら、ご理解いただけますと幸いです。

(調査についてのお問合せ)

国立教育政策研究所生涯学習政策研究部

HP : <https://www.nier.go.jp>

mail : [piaac@nier.go.jp](mailto:piaac@nier.go.jp)

## 第1回調査及び結果の概要

第1回調査は平成23年(2011年)にOECD加盟国など24か国が参加して行われました。日本では第2回と同じ国立教育政策研究所が国内調査の実施機関となって、全国から抽出した16歳から65歳までの11,000人の成人を対象に調査を行いました。

調査内容は、第2回と同様の背景調査と「読解力」「数的思考力」「ITを活用した問題解決能力」の3つの側面から調べる直接評価で構成され、背景調査は調査員のインタビュー形式、直接評価は本人がパソコン入力または状況に応じて問題用紙に書き込む方法で行われました。

調査結果は平成25年(2013年)10月に公表され、日本は読解力、数的思考力の2分野における平均得点で、参加国の第1位でした。

また、読解力、数的思考力の平均得点を年齢グループ別でみると、どの年齢グループでもOECD平均を上回っていて、30歳前後でピークを迎えた後、徐々に低下していく傾向にある他国に比べ、加齢にもかかわらず高い水準を維持していることがわかりました。